



2023

学びの丘学園通信

第3号

おかのうえのぼくら

7月5日発行 文責：学びの丘学園コーディネーター：上野 陽二

今回の学園通信では、小中一貫コミュニティ・スクールの取り組みとして進められている「寺子屋」
「子どもおとな会議」の現況をお知らせします。

子どもおとな会議

【令和4年度 A班のまとめ】

〔自由ヶ丘の花：マリーゴールド（花いっぱい）、地区対抗リレー〕

1. マリーゴールドを自由ヶ丘の花にしたい。なぜなら、マリーゴールドの花言葉が『変わぬ愛』であるから。ペットボトルを植木鉢にしてマリーゴールドを植える。合わせて、5時のサイレンが怖いので、サイレンではなくてあいみょんさんの「マリーゴールド」をながしてもらおう。

2. 人を集めるためにイベントを行う。

【イベント内容】※年齢問わずできる内容 ※春のイベントを考える

○南小学校と自由ヶ丘中学校をつなぐリレー（小中のつながりを）

○校舎をかりて、雑巾がけレース等



【令和5年度 A班 第1回協議結果】



①花いっぱいイベント
＜ゆずのさんか育てた結果＞
ペットボトル-良い点

- ・水を貯え2cm3(毎日水やり)い50.00%
- ・アール・ソレで育て(根を揃くつかひできず)
- ・7時から育てて全2咲いた
- ・おが出たものは全2咲いた

ポット(プラントポット)-花が咲いたのは
半分以下

植える時期-春休みの(3月4月頃)
↓
5月頃に花が咲く

種の方が楽

↓
春休みのイベント

種と苗は
どっちが楽なのかな

問題点

・種0.5 → 1/3 咲いた
1か所に種3つ → 2 咲いた

・横に倒れて植えたものが0 1cm穴に3つ入れた

★どこで咲かせるのか

- ・手元にある。1か所か複数か
- ・地区ごとの公園 → 人が来るのか
- ・学校(環境教育委員?) → 忘れ物とかない
- ・人目に付くところ → 2つ下の下の方
- ・公園 → 近くの人に来る
- ・手元。たくさん人を集める

自主的に

A班は、ファシリテーターの過去の経験からペットボトルを使った花の育て方から、メリットデ

メリットを検討し、何に植えるのか、種からか苗からか、いつ頃植えて、どこで誰が管理するかなどの協議がなされました。併せて、地域の方への呼びかけの方法や地域対抗リレーのイベントについても話し合われました。この活動に、青葉台1丁目のグリーンリーフ（市民花壇を守る会）が、協力していきたいとおっしゃっています。地域との連携も併せて検討していければと感じています。

【令和4年度 B班のまとめ】



〔子ども目線で考えた自由ヶ丘のマップ作り〕

B班は、自由ヶ丘に出没する野生の生き物の中から、イノシシとサルを選んでマップ名を『ボアッキー』と名付けました。

ボアッキーの語源は、イノシシは英語で (wildboar) ワイルドポア、さるは英語で (monkey) モンキー、この二つの言葉を組み合わせた造語として『ボアッキー』です。

マップの内容は、危険箇所や避難場所、NG 場所(釣り禁止場所等)を知らせるもの。合わせて遊んでよい場所等も盛り込むなど、子ども目線で考え自由ヶ丘地区をみんなに知ってもらうことを目指しています。



【令和5年度 B班第1回協議結果】

B班
子どもアンケート

大人アンケート

お客様アンケート

Handwritten notes include:

- 危険箇所: 遊んでよい所か
- 景色のいい所: 景色のいい所
- 子ども110番: 備え、大人が思いつく所
- 避難場所: 最新!!、知らない人多い
- 撮影OK?
- AEDの有無: 備えの場所
- 非常口
- 避難場所: 最新!!、知らない人多い
- 子ども110番: 備えの場所
- 大人アンケート: 同時に行ってもいい共通点
- 子どもアンケート: お店アンケート
- お客様アンケート: 子どもの声
- 大人アンケート: 子どもの声
- お客様アンケート: 子どもの声

B班は、防災マップ等とは違って、子どもたちが遊んでよい場所、危ないところ、景色の良いところ、生き物が出没するところ（イノシシやサル等）、お店などを載せてわかりやすく自由ヶ丘地区を紹介しようというマップ作りを考えているようです。

今回は、マップを作成するための情報を集めるために、子どもや大人からどのような方法でどん

な情報を集めるか、どんなマップにするかなどが検討されました。その中でも特に、アンケートの質問事項を何にするかが現時点での大きな課題のようでした。

【令和4年度 C 班のまとめ】

〔子ども大人食堂〕

(理由) 何かをやっていることで地域が明るくなる。

○子どもと大人が一緒に行くことが大切 (継続するためにも)。

○イベントを行い「子ども食堂」を告知する。

お祭り ➡ 児童生徒の発表の場、中学生の路上発表

○子ども大人食堂のやり方

来た人たちでご飯をつくる。来られない人に UberEats

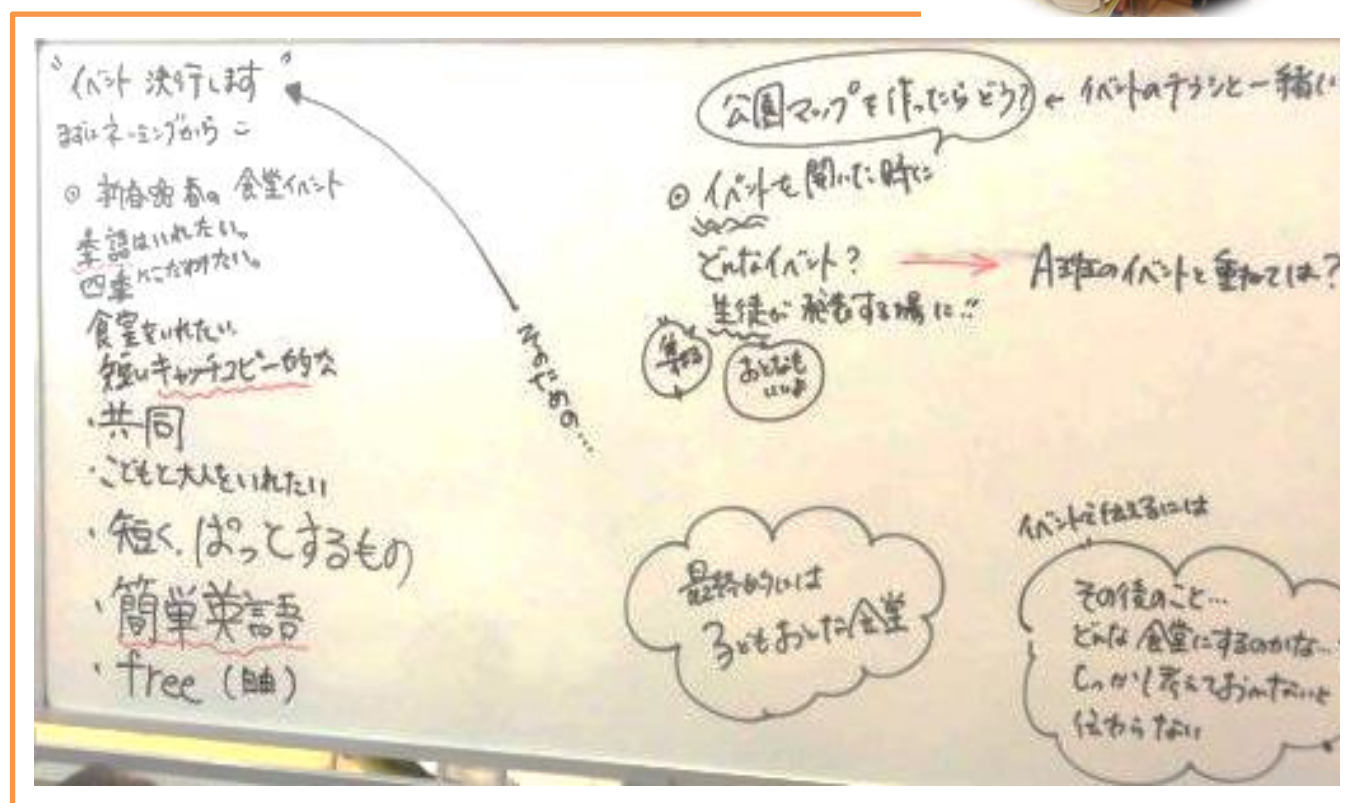
(ウーバーイーツ) で配布する。

配布先を区切って (地域に分けて) 届ける。

会場は、自由ヶ丘
小、自由ヶ丘南小学
校の近く



【令和5年度 C 班第1回協議結果】



C 班では、春の食堂イベントを検討していました。

子どもおとな食堂を開くにあたっては、「イベントと一緒にいったほうがよいのでは」ということで、「A 班のイベントと重ねては」という意見も出ていました。また、呼びかけるためのキャッチコピーも、「短くパットするもので英語を使ったほうが良い」ということで検討していました。英語表現にするために、苦労していましたが、子どもおとな会議の様子を見に来られていた3校の校長先生方の協力も得ながらの表現決定になっており、微笑ましく感じました。

今後検討を重ね、自由ヶ丘地区コミセン内部の各組織や自由ヶ丘各地区の活動組織との連携が図られるようなものが生み出されるとコミュニティ・スクール本来の姿になると思います。



2023

学びの丘学園

自由ヶ丘子ども教室「寺子屋」

自由ヶ丘南小学校での「寺子屋」開始

学校での学習に力を発揮できない子どもたちが、少しでも自分のペースでゆっくりと学べたり、自分の課題を少しずつでも克服したりできるような場として、自由ヶ丘地区コミュニティセンター（コミセン）での「寺子屋」が令和3年1月スタートして2年6ヶ月になります。自由ヶ丘小学校の児童は、校区内にコミセンがあるため何も問題ない状況でした。

一方、自由ヶ丘南小学校の児童は、保護者の送迎ということが影響し、開設当初来ていた児童の足も遠ざかり、参加者なしの状況にありました。昨年度から「南小学校の校区内にも寺子屋開設を」という声があがり、自由ヶ丘子ども教室「寺子屋」の方々が協議し、自由ヶ丘南小学校長（青野慎一先生）に相談して、5月13日（土）から活動を開始することができました。

5月13日（土）は17名、5月20日（土）は11名の参加がありました。子どもたちは、自分の課題を持参し、課題と向き合っていました。うれしかった光景が、上の学年の子どもが後輩に教えながら自分の課題に向き合っていたことです。中には、途中まで一生懸命後輩の勉強を見ていましたが、教師が巡回していると「先生、後はお願いします。」と言い、自分の課題に取り組む児童もいました。このような子どもが増えていくと、昔の縦の関係（先輩が後輩を育てる）が復活するのではないかと期待が持てます。



上の学年の児童が下の学年の児童に教えています



手を挙げた子どもへの指導を先生が行っています



自分の課題に取り組んでいる児童の姿

自由ヶ丘コミュニティセンターでの「寺子屋」の様子



先生方は、一緒に学ぶ気持ちで、子どもたちに寄り添い、丸付けしたり、子どもの質問に答えたりしながら、マンツーマン指導に近い状況で指導されています。